

「学生の授業評価」についての教員アンケート
集計結果報告（2010年度 前期分）

2011年3月

実践女子短期大学自己評価委員会

はじめに

短期大学部長 小林 修

この「教員アンケート集計結果報告書」は、学生による全科目にわたる授業評価結果を各教員がどのように受け止めているかについて、アンケート形式で調査した結果を自己評価委員会が集計し報告書としてまとめたものです。常により良い授業をと考えている私たちにとって、学生の声である授業評価は重要な情報であり、それを受け止めた各教員の声を知ることも、それぞれの授業改善に重要な参考資料となることは改めて言うまでもありません。毎回のことながら本報告書の編集は大変な作業であり、ご尽力下さった自己評価委員会の方々に感謝の意を表したいと思います。本報告書の発行も7年目を迎え、通算して13号目となりますが、年々改良が加えられて来ています。各教員からの学校への要望についての回答が加えられたのもその一つですが、前年度の授業評価と比較して検討できるよう配慮された編集も有益なものと思われます。関係各位一人でも多くの人に読まれ、参考にさせていただきたいと願っています。

さて、今回の集計結果を見ますと、学生の評価結果に対して「納得できる」とこたえた教員は95.5%と安定して高い数値を示しています。自由記述欄には相変わらず学生の安易な評価姿勢への不信の声も見られますが、学生による授業評価自体は概ね信頼できると受け止められたようです。しかし、授業評価の実施方法や評価項目（これは経年変化を見るために、これまで同一内容で実施して来ましたが）の再検討にはそろそろ着手しても良いのではと思っています。

前回も書きましたが、本報告書の重要なコンテンツの一つは自由記述欄の収録にあると思いますが、今回も様々なご意見やご要望に教えられることが多く、「学生により良い教育を提供したい」との思いはしっかりと共有されており、教員それぞれが自らの授業改善に地道な努力を傾注されていることに、改めて意を強くした次第です。全国的に短期大学を取り巻く状況は相変わらず極めて厳しいものがありますが、優れた教育力を示すことこそ逆風に立ち向かう力であると思います。繰り返しになりますが、この報告書が実践女子短期大学の教育力向上のために大いに活用されることを願っております。

2010年度前期「学生による授業評価」に関する教員アンケートについて

自己評価委員会委員長 西脇智子

2010年度前期の『教員アンケート報告書』をお届けいたします。

本学の自己評価委員会は、2006年度前期分から「学生による授業評価アンケート」の項目改訂に伴い「教員アンケート」の内容を一新させ、2007年度の授業評価を前年度の授業評価に照らして検討できるように配慮してきました。今年度も原則的に前年度と同じ方法で、全開講科目の履修生を対象に第15回授業の最終回に実施していただきました。この「授業に関するアンケート」の結果を受けて、日頃よりご多忙な先生方にご無理なご依頼を申し上げて参りました。今般、2010年度前期分の「学生の授業評価」に関する教員アンケートには、66通の回答が寄せられましたこと心より御礼申し上げます。

さて「学生の授業評価」を受けた教員の95.5%は、学生の評価結果を「納得できる」と答えています。教員が学生の評価結果に「納得できる」と答える割合は、前年度に照らしても(前期95.8%)大差はありません。しかし「十分納得できる」と「だいたい納得できる」と答える割合には若干の変化が表れています。学生の評価結果を「十分納得できる」と答える教員の割合は、前年度の38.0%に比して下がり33.4%となりました。「だいたい納得できる」と答える教員の割合は、前年度の57.8%に比して上がり62.1%となりました。このような変化の表れが意味するものはなにかを検証し、2010年度のアンケート結果が揃う次年度には、授業評価の意味を見出していきたいと思えます。

本委員会の役割には、前期・後期の授業評価の実施ならびに前年度の後期・今年度の前期の授業評価の結果を報告書にまとめる作業があります。この『報告書』は、いわゆる「出口調査」のまとめといえましょう。この「出口調査」には、1つ「科目」を共有した「学生」と「教員」から寄せられる貴重なご意見やご意志が反映されています。今般も授業評価アンケートの質を問うご意見や、学科および短大への要望が寄せられました。これらのご意見はとくに重く受けとめ、委員会にて審議を重ねて参りました。

次年度のシラバスは、これまでの改訂項目に加え、新たに「事前学習」を明確に記述することが求められるようになりました。学生に基本的な資質をどのように保証するのか、教育成果を明示することが求められる時代となりました。学生と教員が互いに協働して「学びの創造」を築くために、FD推進委員会の導きにより授業評価の再検討が今後始まることでしょう。

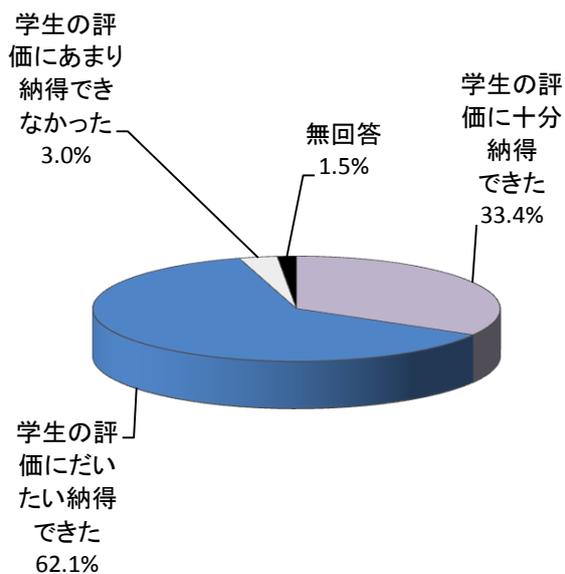
本『報告書』が「授業」を顧みる機会となり、またFD推進委員会にも活用され、短大全体の授業向上に役立つことを期待したいと思います。

I. 設問 1、3、4に関する集計結果

— 平成22年度前期と平成21年度前期の比較 —

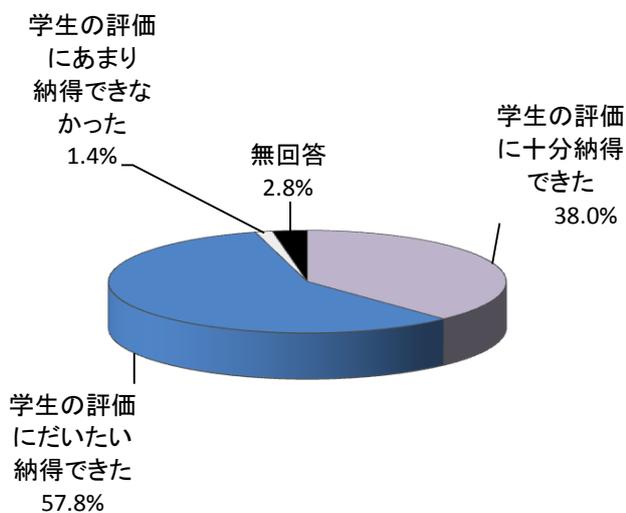
設問 1. 学生の評価を全体としてどう受けとめましたか。(一つ選んでください)

平成22年度 前期



選択肢	回答(人)	割合
学生の評価に十分納得できた	22	33.4%
学生の評価にだいたい納得できた	41	62.1%
学生の評価にあまり納得できなかった	2	3.0%
無回答	1	1.5%
合計	66	100.0%

平成21年度 前期

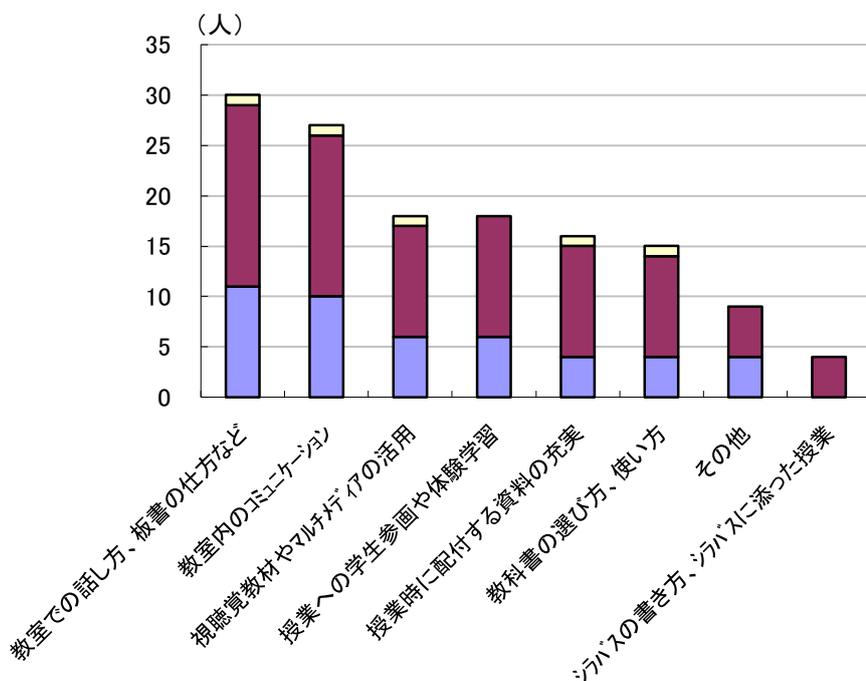


選択肢	回答(人)	割合
学生の評価に十分納得できた	27	38.0%
学生の評価にだいたい納得できた	41	57.8%
学生の評価にあまり納得できなかった	1	1.4%
無回答	2	2.8%
合計	71	100.0%

次の設問3および設問4は、学生の評価に「十分納得できた人」「だいたい納得できた人」「あまり納得できなかった人」の3群の先生方が、どのように授業改善を図りたいと考えているのか、学生に対してどのような要望があるのかを、それぞれ棒グラフにしました。

設問3. 学生の評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどのようなことですか。（複数回答可）

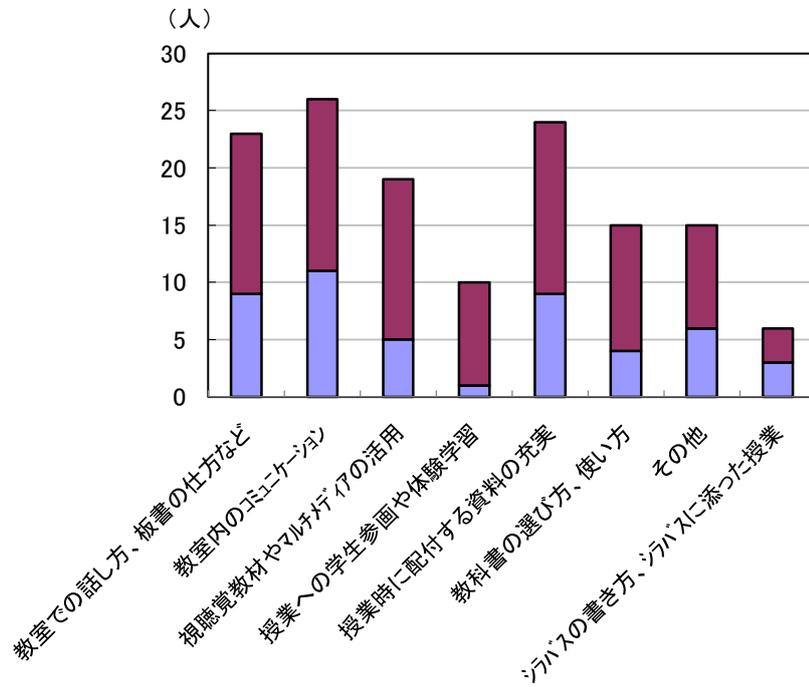
平成22年度 前期



- 学生の評価にあまり納得できなかった人
- 学生の評価にだいたい納得できた人
- 学生の評価に十分納得できた人

授業で改善を図りたい点	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
教室での話し方、板書の仕方など	11	18	1	30
教室内のコミュニケーション	10	16	1	27
視聴覚教材やマルチメディアの活用	6	11	1	18
授業への学生参画や体験学習	6	12	0	18
授業時に配付する資料の充実	4	11	1	16
教科書の選び方、使い方	4	10	1	15
その他	4	5	0	9
シラバスの書き方、シラバスに添った授業	0	4	0	4
無回答	0	0	0	0
合計	45	87	5	137

平成21年度 前期

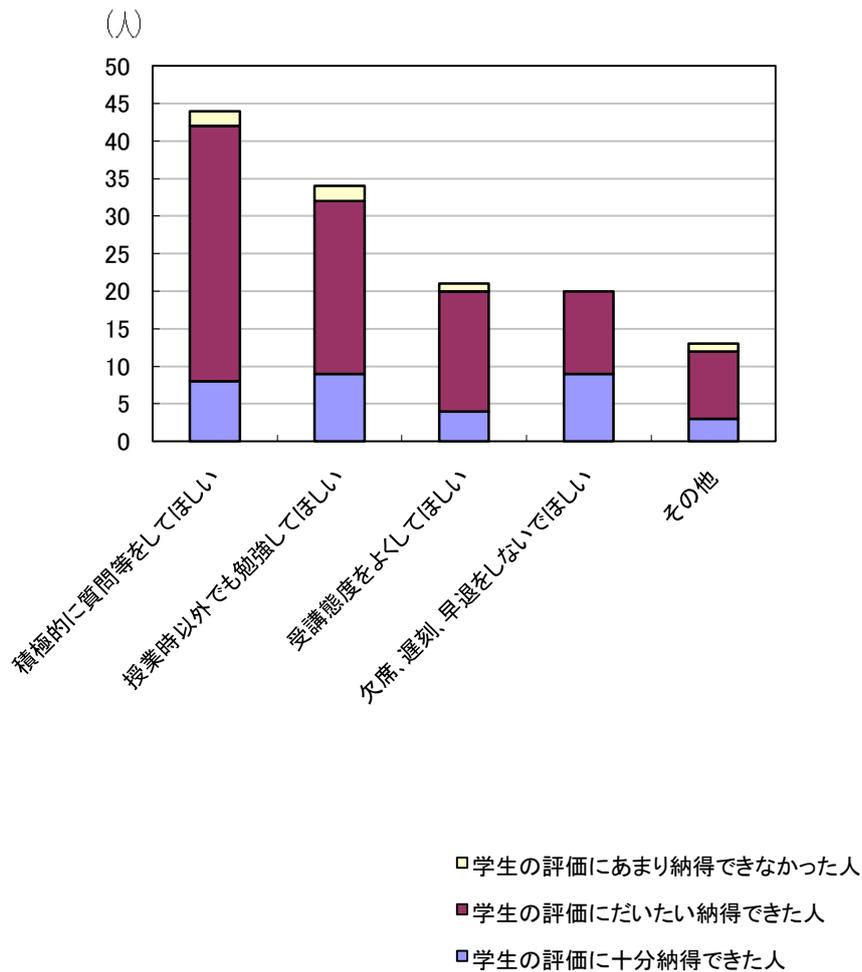


- 学生の評価にあまり納得できなかった人
- 学生の評価にだいたい納得できた人
- 学生の評価に十分納得できた人

授業で改善を図りたい点	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
教室での話し方、板書の仕方など	9	14	0	23
教室内のコミュニケーション	11	15	0	26
視聴覚教材やマルチメディアの活用	5	14	0	19
授業への学生参画や体験学習	1	9	0	10
授業時に配付する資料の充実	9	15	0	24
教科書の選び方、使い方	4	11	0	15
その他	6	9	0	15
シラバスの書き方、シラバスに添った授業	3	3	0	6
無回答	0	0	2	2
合計	48	90	2	140

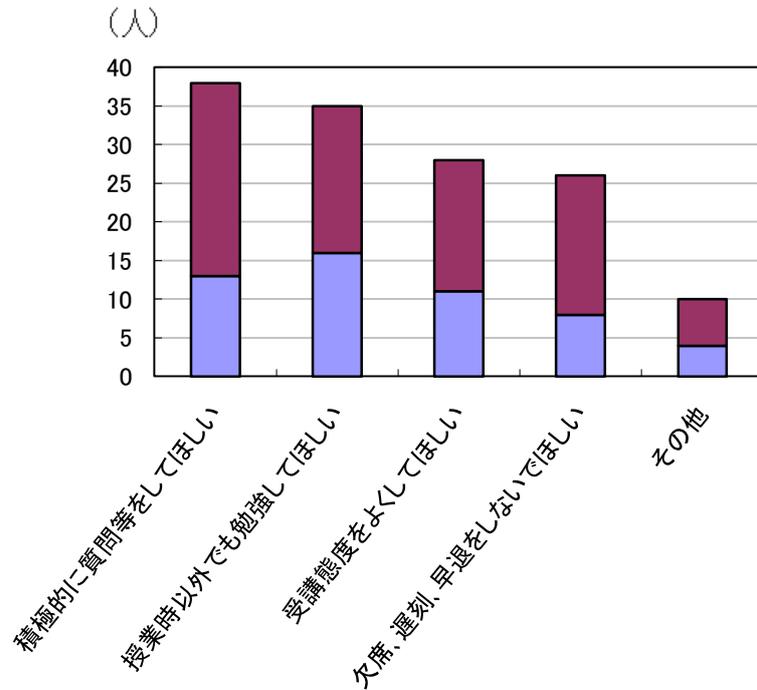
設問 4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどのようなことがありますか。
(複数回答可)

平成22年度 前期



学生に対する要望	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
積極的に質問等をしてほしい	8	34	2	44
授業時以外でも勉強してほしい	9	23	2	34
受講態度をよくしてほしい	4	16	1	21
欠席、遅刻、早退をしないでほしい	9	11	0	20
その他	3	9	1	13
無回答	0	0	0	0
合計	33	93	6	132

平成21年度 前期



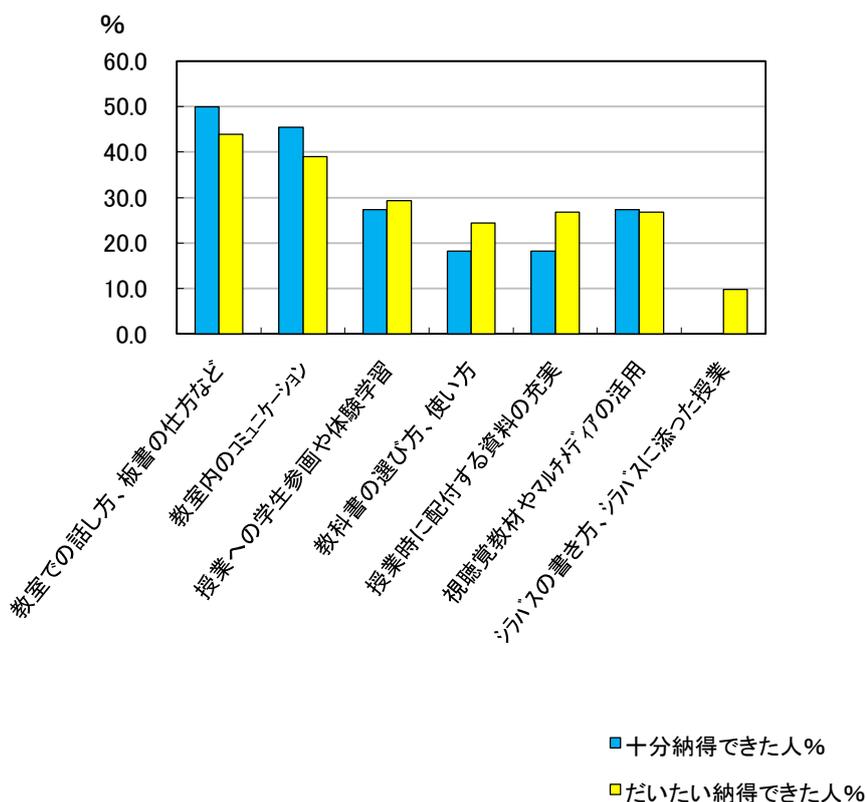
- 学生の評価にあまり納得できなかった人
- 学生の評価にだいたい納得できた人
- 学生の評価に十分納得できた人

学生に対する要望	学生の評価に十分納得できた人	学生の評価にだいたい納得できた人	学生の評価にあまり納得できなかった人	合計 (人)
積極的に質問等をしてほしい	13	25	0	38
授業時以外でも勉強してほしい	16	19	0	35
受講態度をよくしてほしい	11	17	0	28
欠席、遅刻、早退をしないでほしい	8	18	0	26
その他	4	6	0	10
無回答	2	2	2	6
合計	54	87	2	143

学生の評価に「十分納得できた人」と「だいたい納得できた人」の割合の差について

I 設問3. 学生の評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどのようなことですか。（複数回答可）

平成22年度 前期



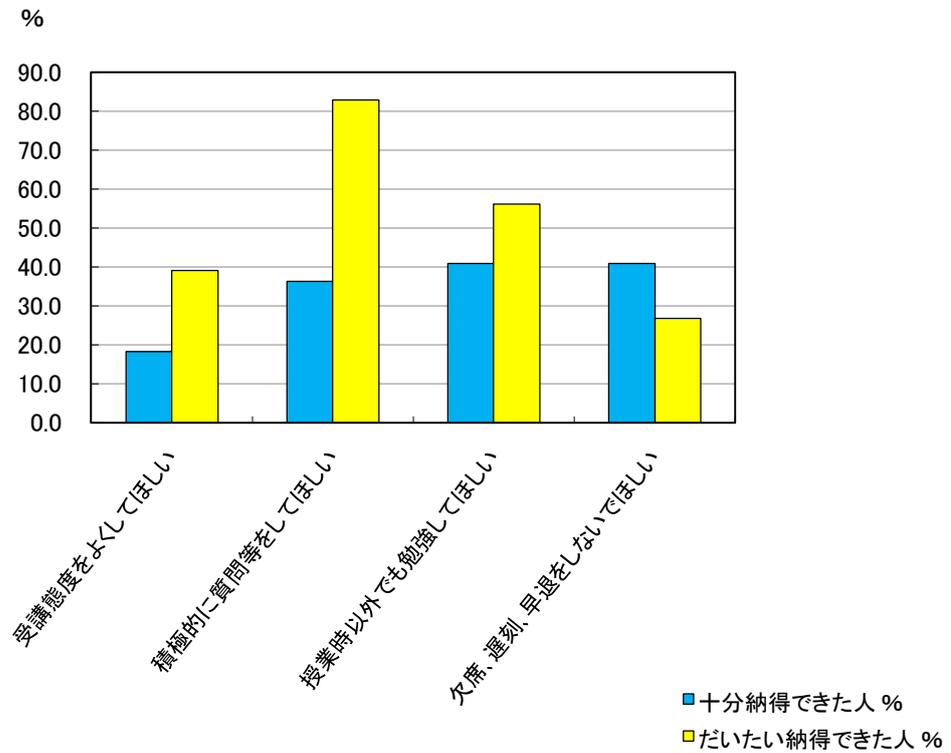
授業で改善を図りたい点	十分納得できた人 (22人)		だいたい納得できた人 (41人)		合計 (人)
	人	%	人	%	
教室での話し方、板書の仕方など	11	50	18	44	29
教室内のコミュニケーション	10	45	16	39	26
授業への学生参画や体験学習	6	27	12	29	18
教科書の選び方、使い方	4	18	10	24	14
授業時に配付する資料の充実	4	18	11	27	15
視聴覚教材やマルチメディアの活用	6	27	11	27	17
シラバスの書き方、シラバスに添った授業	0	0	4	10	4
その他	4	18	5	12	9
無回答	0	0	0	0	0

※ 無回答を除く1人当たり回答件数 2.0件 ↓ 2.1件 ↓

注：「十分納得できた人」22人に対する割合 「だいたい納得できた人」41人に対する割合

Ⅱ 設問 4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどのようなことがありますか。
(複数回答可)

平成22年度 前期



学生に対する要望	十分納得できた人(22人)		だいたい納得できた人(41人)		合計 (人)
	人	%	人	%	
受講態度をよくしてほしい	4	18	16	39	20
積極的に質問等をしてほしい	8	36	34	83	42
授業時以外でも勉強してほしい	9	41	23	56	32
欠席、遅刻、早退をしないでほしい	9	41	11	27	20
その他	3	14	9	22	12
無回答	0	0	0	0	0

※ 無回答を除く1人当たり回答件数 1.5件 ↓ 2.3件 ↓
注：「十分納得できた人」22人に対する割合 「だいたい納得できた人」41人に対する割合

II. 設問 1 から 6 に関する自由記述のまとめ

*科目および担当者が特定される記述は、文章を損ねない範囲で修正いたしました。
また、類似の記述については、まとめさせていただきましたことをご承知ください。

設問 1. 学生の評価を全体としてどう受けとめましたか。 (有効回答数 42/66)

1. 十分納得できる (有効回答数 15/22)

- ・高評価で安心しました。学生の皆さんにメッセージが伝わった証とうれしく思います。
- ・9割以上の学生は実習や講義をまじめにやっていましたが、一部の学生は私語が多すぎました。
- ・授業内に実施した学生コメントと今回の評価は大方一致していた。
- ・授業に関するアンケートの設問Ⅱ・6(「この授業の教科書・資料や視聴覚教材の使用は適切でしたか」)に対し、「強くそう思う」「ややそう思う」で66%であったのは、パワーポイントをまとめ等で部分的に導入したり、VTRなどの効果と思う。
- ・60名以上の人数であったので、どこまで授業内容が伝わったか心配であったが、Ⅲ-13の「興味や関心が増えたか」の問いにやはり60%の「そう思う」があったのは嬉しかった。
- ・講義中の学生の態度から納得できます。
- ・まじめに授業評価に取り組んでくれている。自由記述欄の記載内容も好意的である。
- ・授業開始に当たって配慮したことが反映されていました。
- ・他者の主観に対して批評するつもりはありません。
- ・授業で意図したこと及び学生の反応が反映されていると思う。
- ・毎回の授業で「アンケート」(授業の感想と質問ならびに新聞・本の読書観)を実施して、具体的な意見を把握しているが、その結果と合致している。
- ・よく協力する雰囲気ので授業を行えたので、感謝しています。
- ・授業の前に、ピーター・クライン氏考案の「グッド&ニュー」を取り入れて、グループ全体である一つの習慣を共有することと、うれしい出来事や体験に意識を集中させることで物事を前向きでポジティブに考え、それを活力源とするリフレーミング効果を図りました。
- ・非常に良い評価が得られて満足している。否が応にも意欲が高まるこの頃である。伝えたいことを網羅した上で、学生にとってより分かりやすい授業・実生活に結び付けられる授業になるよう努力したい。
- ・授業の進め方、内容等に関し、自分が心がけた点が学生から評価されていたため。

2. だいたい納得できる (有効回答数 25/42)

- ・ほとんどの学生がかなり積極的に授業に臨んでくれていたので、そのことが反映した評価であると思う。
- ・学力の劣る学生、興味・関心の異なる学生もいるので、全員が満足するような授業を行うのは至難の業だと思います。
- ・入学時こわごわ包丁を持つ手がこの何ヶ月で自然に握れるようになり材料を切ったりきざんだりしている姿が板に付いてきました。

- ・一人だけでしたが、設定していない問いにも上と同じ印をつけていて、機械的にチェックしている様子でした。
- ・「7. 質問に対する教員の対応」について15%強の学生が「どちらとも言えない」と回答しているが、授業中、及び授業後に学生から授業内容に関する質問がでたことは一度もない、何を根拠に「どちらとも言えない」という回答が出たのか分かりません。
- ・演習の多い授業は学生の満足度が高い。
- ・どちらかといえば、なじみの無い講義内容であったかもしれません。受講してよかったと思っただけかと思いますが、その点は受講態度から納得できる。
- ・概ね学生は意欲的に取り組んでいると思いますが、やゝ安易に考えて入学して来た学生には難易に感じているのかと思います。
- ・ここ数年、意欲差・学力差の出やすい同一科目の学生評価に注目し、特に質問項目の4、8、9、11、15を判断指標とするが、学生は、まずは納得できる評価を下している。
- ・昨年の受講生より今年の方が評価が高いのは、両年の学生の顔を思い浮かべるとさもありなんとと思う。
- ・範囲が広い中で、講義した内容が限られたものになってしまった。
- ・半期の授業で扱う内容としては、やや分量が多く、十分に伝わりにくかった。
- ・授業中に毎回アクションペーパーで質問感想を受けていたので、その印象とだいたい一致していたので納得いたしました。
- ・こちらの感じている各クラスの感触と、結果は大体あっていると思います。理解の浅いクラスはレベルが適正でない(むずかしい)と感じている人が多いですね。おしゃべりが多いクラスが理解度が浅いです。
- ・2年生になって、実験授業に初めて触れるので、機器の扱い等に慣れていない学生が多いように見受けました。科目の性質上、理化学実験と微生物実験の両方を行わなくてはならないので苦手意識が出てしまうのだらうと思います。
- ・それほど難しい内容とは思っておりませんが、やはり専門的なところは、もっと分かりやすく説明すべきであったと思います。
- ・授業態度、出席率に比例しての評価が反映されていると見なすことができる。
- ・授業を担当してから初めて「やや不満」と「大変不満」の回答がありました。比較的「楽しかった」「満足した」という感想が多い中で、どの点が不満に思ったのか、もう少し具体的に聞いてみたいです。
- ・設問I、1～2の評価が平均と比べて低かった点は、特に教室後方に座っていた学生への授業参加に向けた取り組みができていなかったように思う。
- ・難しいことをなるべく「自己体験レベル」に言い換え、解りやすい講義を心がけているものの、授業内容が多いため、集中していないと解らなくなる事があると思われる。
- ・本年度は、企業との産学共同の形式を取っていたため、レベルや量が短大生にとっては厳しい内容になっていました。このことに加え、学生自身で考えるというスタイルであったため、この点に関する評価が低かったことはやむを得ないと思われます。
- ・一部の学生についてだが、ややおざなりに回答している印象がある。
- ・「納得」ということばの用法によるが、ここ数年の学生の向学心・基礎学力の実勢からいえば、そういう結果になることは「だいたい納得できる」。

- ・授業内容のレベルと量について、危惧していた通りであった。
- ・全般的な学生の満足度には納得できるものがある。満足度は授業に対する学生の態度に関係していると思う。

3. あまり納得できない (有効回答数 2/2)

- ・理解し、制作する学生の能力が不足と感じる。学習内容をもっとしぼり、量としても少なく計画しなおさないといけない。
- ・英コミ・福祉の学生共、同一シラバス、同一授業内容を指導していたにも関わらず、福祉の学生評価と比較して、英コミの約1割の学生に不満の評価が分かれたことに理解に苦しんでおります(福祉は0%)。しかしながら、英コミの評価結果を真摯に受けとめ、来年度に活かしたく存じます。

設問2. 授業のレベルと量についての学生の評価はいかがでしたか。この評価について、先生の側から見たご意見をお書きください。

a. レベルについて (有効回答数 52/66)

- ・設問9について「適切」が52%、「不適切」が12%。不適切理由は難解だからと。このようなものであろう。
- ・学生の評価は概ね良いと思われる。この結果から、現在のレベルは適切な状況に収まっていると考える。
- ・概ね予想した内容と合致している。
- ・抽象度の高い内容も入れてしまったため、分かりにくい点があった。
- ・半数が大学からの単位互換の学生で関連授業も受講していることなど、学生間で基礎知識や理解力の差が大きく、レベルの設定は学生の反応を見ながら定めますが難しい点もあります。
- ・同じ専門領域の他短大以上を目指してレベルを設定しています。就活を支援するためにも保持していきたいレベルです。
- ・年々学生のレベルの最低ラインが下がってきているように感じられます。その結果、授業内容も浅くせざるを得ない面があるようです。
- ・高校までにきちんと取得すべき知識も、復習しながらであったので難しくはなかったと思われる。
- ・基礎学力がないのでどの科目も難しいのでしょうか。そもそも、大学で学ぶということはどういうことなのでしょう。
- ・中の上程度の学生を基準にレベルを設定しながら、かなり噛み砕いて説明し、復習もしながら進めていますが、これ以上レベルを下げることはかえってやる気のある学生の気持ちを損なうことになると思います。
- ・「本づくりの基礎」というよりは、出版界の周辺を業務の流れに沿って解説した。出版社～取次～書店さらには関連する印刷業界にも触れ、多面的に“出版の周辺”について解説した。
- ・妥当であると思う。
- ・栄養士としての資格を取得する学生に取っては、決してレベルの高い内容ではないと思いますが、No. 9 (授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。) の評価は適切及びやや適

切だと思ふという評価が 58.1%でした。できればレベルはこれ以上上げたくはないのですが、検討したいと思います。

- 日本国憲法について学ぶのであれば、レベルについて高いとは思いませんが、やはり大胆な工夫が必要であったのかもしれないと思います。
- 介護の基本を身に付けてほしいと、ワークショップ形式で取り組みましたが、介護される立場を演じる方が、難しかったようです。授業後、疑問点、感想など毎回提出をもとめましたので、どの学生も、まじめに取り組む姿勢を感じました。
- レベルは高いものであったので、相応の評価だと思う。
- 短大の一般教養科目なので、大学の専門科目で教えている講義内容よりも、かなり簡単な内容やことばにして教えたため、1割の学生以外は、適切なレベルだと感じていることがわかった。社会人の方や大学の学生に向けては、もう少し難しくても大丈夫な気がする。
- 「やや難しい」という回答が、例年通り 100%でした。英語より難しいという印象を持ったのだと思います。
- 授業では、できるだけ学生自身の生活（子ども時代や現代の子どもの様子など）と関連するような事項に触れながら、学生が関心を持てるように努めたので評価は良かったように思われる。
- 栄養士を目指している学生の知識レベルがあまり高くないと感じました。料理をあまりしない、料理に対する興味の度合いも高くないなど、非常に基本的な事で知っていてほしい事が欠落している学生が多かったのが気になります。
- 受講生たちの理解度等々のバラつきが徐々に大きくなっているように感じられる。論述式試験についても「論述でなくマークシートでやってほしい」という声もあるが、「事前に問題を教えてもらえるので、勉強しやすい」等の声もある。どのくらいのレベルを設定したらよいのか……それが問題です。
- 企業に、アンケートを元に自分たちの考案したアイスクリームを提出という形式を取っていたため、短大生にとってはハイレベルでした。
- レベルはやはり難しいようであるが、丁寧に説明することにより諦めずに付いてきてくれていると思う。個々の学生に勉強の必要性を伝えた範囲内では、よく頑張ってくれていると思う。補習を望んでいる熱心な学生もいるので出来るだけ応じたいと考えている。
- 詳しいレジュメを作成し、分かりやすく説明するように心掛けたので、学生も適切と評価しているようです。
- 学生評価の平均が 4.8 ポイントで、おおむね適切なレベルの講義を提供できたかと思う。配付物などのレベル設定に際しては、専門用語は多用せず「学生が自分の頭で考えること」を主目的の一つに据え、学科などによる理解度の差が出ないように平易な表現を心がけた。
- だいたい予想どおり。
- 全般的には「適切」の評価が多かったが、「やや難しい」が 5～10%あった。→これはやむを得ない。
- 学生自身も納得している。
- 毎年、本欄に記述しているように、辞書の項目を噛み砕いて説明するようなレベルでも「難しい」と感じられるのでは、対処のしようがない。
- 講義開始時は学生ごとにレベルの差があったため、レベル設定を考慮した。評価がよかった

ので、設定がうまくできたのだと思う。

- ・なるべく教科書に沿った形で授業を進めたが、高校で化学を履修していない学生に化学構造式を理解してもらうだけの時間がないのが残念に思っている。
- ・8割強の学生が「普通」もしくは「適切なレベル」との評価であった。栄養士として社会に出た際に必要とされる内容に関して行っているので、適切なレベルであったと思われる。
- ・同じ教材であっても、難しいととらえる学生もいれば、易しいととらえる学生もいて、理解度の差があるといえます。特に人数の多い講義は詳細が異なっています。
- ・レベルは高いと言われています。これは、こちらの思う通りです。レベルを下げる気はありませんが、それをどんな相手に伝えているか、受講者の現実を正確に把握する機会をつくるのが教員には必要であると思いました。
- ・易し過ぎたという評価をする学生と難し過ぎたという評価をする学生の両方がおり、レベルの設定が難しいと感じた。
- ・3.7という評価をいただいたので、ほぼ適正ではなかったかと思います（期末試験のレベルが過重にならないように配慮しました）。
- ・学術的な目標設定を落とさずにかみくだいて提供しました。
- ・高校までに学習したことのない内容が多いので、難しく感じるのかもしれない。導入部分に時間をとりたい。
- ・年々これだけのレベルの作品造りが、難しくなっている。理解不能の学生がいる。
- ・技術的にはまだまだと思いますが、最後まであきらめなくて調理に参加して欲しい。
- ・授業のレベルは高い方です。
- ・「難し過ぎた」とする学生が1割程いるが大方の学生は適切（ややそう思うも含めて）と評価している。「興味、関心がふえた」と96%の学生が評価している点を考えると、この授業についてはこのレベルがよいのではないかと考える。
- ・「レベルはあなたにとって適切でしたか」という設問は、「将来あなたが社会に出ていく時に役立つレベルでしたか」であるべきなのではと感じております。
- ・かなり、学生間に関心度、知識差があったので、（1年、2年半々程度）部分においては、レベルをあまり低くしない程度に専門的な言葉（名称等は別）をひかえた。
- ・将来、専門職として活動したいと考える学生にとって必要なレベルであると思います。多くの学生もそのように受け止めてくれたのだと思います。
- ・ほとんどの学生がちょうどよい、としていたので、適当であったかと思います。
- ・難しすぎる、興味をもてない、という意見に対しては、理解できない。それであれば、自身の興味ある科目を選択すればよい。
- ・18%強の学生が「どちらとも言えない」と回答しているものの、80%強の学生にとっては適切だということなので、このレベルでよかったのではないかと考えます。
- ・学生の能力に格差があるので、そのレベルごとに対応したい。
- ・「難し過ぎた」が1名いたが、この1名を救うためには、個別対応しかない。
- ・一部の学生からは少しレベルが高い印象をもたれたようですが、一般常識的な部分も多い事を考えると、このレベルが妥当と考えています。
- ・少しでもハイレベルの内容をと心がけておりますが、学生には消化しかねる場合もあるのかもしれない。

b. 量について (有効回答数 47/66)

- ・適切(「強くそう思う」と「ややそう思う」)が60%、不適切(「あまりそう思わない」と「そう思う」)が12%。不適切理由は授業内容量が多いからだと思う。
昨年度より適切が多いのは、重要作品を更に詳しく講じ、そうでない作品は少し飛ばした工夫が、量として十分と映ったのか。
- ・学生の評価は概ね良いと思われる。この結果から、現在の量は適切な状況に収まっていると考える。
- ・範囲が広い中で、講義した内容量の面でも限られたものになってしまった。
- ・やや多かった。もう少し範囲を限定した方がよかった。
- ・同じ専門領域の他短大以上を目指して量を設定しています。就活を支援するためにも保持していきたい量です。
- ・残念なことですが、レベルと同様、量も減らす必要があるようです。
- ・授業中に課題をこなすように配慮しているので、自宅学習は少なめであった。もう少し増やしてもよかった。
- ・きちんとした学習経験がないので量も多いのでしょう。
- ・15回の授業で押さえておきたい内容がある以上、授業の中で復習も入れながらだと、授業内に出来上がらなかった分が宿題となります。決して多すぎる量ではなく、学校の時間内で十分に終わる量ですが、やはりやる気や、やらねばならないという気がないのでしょう。バイトでできなかったということを平気で言う学生が増えているのが気になります。
- ・15回の講座は適切な学習量と考えている。課題として、「作文(原稿を書く)」「書籍の企画」「雑誌の企画」「POP 広告」の4課題を提出させている。学生の評価は、おおむね課題を“楽しかった”としている。
- ・妥当であると思う。
- ・学生の評価として、適切及びやや適切と答えた学生は64%でした。3コマ続きで7.5回の授業ですから、内容量は決して多くはないと思いますが、1回(1.5コマ×2)の授業の中で前半と後半で異なる実験内容、例えば、前半が前の週の判定、後半が新しいテーマの内容で実験をする場合があるので、切換がうまくできないのかもしれませんが。工夫はしたいと思います。
- ・量としてはもっと学んで欲しいと思いましたが、時間的な限界があり、致し方ないのかなと思います。
- ・介護の実技は、相手のおかれた状況で違いますし、介護する側の、体格でも当然安全を考慮し違ってきます。人間の基本動作を分析し、お互い考えながら心合わせる方法を、グループで検討発表しながら、進めましたが奥が深く、どこまで教えたらいいのか悩みました。
- ・学生の理解度を反映して、妥当だと思う。
- ・短大の一般教養科目なので、大学の専門科目で教えている講義内容よりも、かなり内容量を減らしたため、1割の学生以外は、適切な範囲だと感じていることがわかった。ただし、教員側としては、もう少しいろいろなことを教えたかったという気持ちも残った。
- ・量については毎年「やや多い」という回答だったので、今年は随分減らしました。その結果「やや少ない」という結果となりました。

- ・量についても、学生のレベルに合わせて調整したので良かったように思われる。
- ・使用している教科書のボリュームがあるため、学生はどこまで学習すればよいのか混乱している様子がうかがえました。ただし、将来的には知識として身につけて欲しい事が基本からやや高いレベルの事まで記載されているため、手元に置いて見返すような使い方をしてほしいと思っています。講義の中ではポイントを絞って教えましたので、基本については学習できたと理解しています。
- ・通年に比べ半期は、与えられた期間とこれだけは伝えたいという内容・深さとの兼ね合いがあらためて難しく感じられる。
- ・レベル同様に、量についても、授業外での課題もあるなど、例年と比較して多くなっていました。
- ・量も減らせない事情があるが要点をしっかりと示すことにより打開できるのではないかと考えている。工夫あるのみ。
- ・総体的には、適切であったと考えます。
- ・学生評価の平均が 4.7 ポイントではあったが、学生の要望で急遽「睡眠障害対策」を 1 コマ加えたため、後半の授業はやや詰め込み過ぎになった感あり。このため、最終日（レポート回収日）に、一部講義がずれ込んでしまい、反省している。
- ・だいたい予想どおり。
- ・全般的には「適切」の評価が多かったが、「やや多い」が 5～10%あった。→これは、やむを得ない。
- ・学生自身も 1/5 程度を除き納得している。
- ・毎年、本欄に記述しているように、入門書の中項目レベルのみを選んで講じているようなレベルでも「多い」と感じられるのでは、対処のしようがない。
- ・前年度よりも減らしたものの、それでも多いと思う学生が前年よりも増えてしまった。
- ・当初予定していた量の 80%程度しか進まなかったが、それでも学生にとっては多いようだ。
- ・過半数の学生が適切、3割強の学生が普通と評価していた。隔週開設の演習であり、時間的配慮もされていたので、適切であったと思われる。
- ・量についても理解度の差が評価に出ていました。
- ・量は多いと言われています。これは、こちらの思う通りです。量を減らす気はありませんがそれをどんな相手に伝えているか、受講者の現実を正確に把握する機会をつくるのが教員には必要であると思いました。
- ・多過ぎたという学生が 1 名いたが、おおよそ適切な量だったと考えている。
- ・3.5 という評価をいただいたので、ほぼ適正ではなかったかと思います（期末試験の範囲設定に注意を払いました）。
- ・過不足なく、与えられたコマ数以上の内容を消化できる分量を考慮して教え伝え体験していただきました。
- ・宿題とせずに授業中に提出物の作業が終わるようにしたい。
- ・授業にて学習し、制作するが、制作する為の時間が、年々長くなるようだ。家で制作してきて欲しい。
- ・時間的な点からみるとこの程度。
- ・以前より、かなり要点にまとめたので量的には良かったと考える。

- ・資格取得者を輩出するにあたって一定の水準を保つことは養成校としての社会に対する責務であるため、必要な学習は行わなければならない。多くの学生はその様に受け止めてくれたのだと思います。
- ・多いと、感じた学生も少数でしたが、実技中心の科目なので、仕方ない面もあると感じます。授業内でなるべくできるよう工夫したいと思います。
- ・四大の学生と比較してもいけないと思うが、比較すると1/2の量である。それでも途中で飽きてしまって騒いだりするので、非常に困難である。
- ・シラバスに沿って……ということ、少し詰めこみすぎたかと危惧したものの、多くの学生が満足という回答であったので、適量だったのであろうと思います。
- ・適切であった。
- ・量については、ほとんどの学生が適正なものと考えていると思います。
- ・レベルとの関連があり、複雑になると、量的にも過重と感じる学生もいるでしょう。

設問3. この評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどんなことですか。

(有効回答数 20/66)

- ・板書はできるだけブロック体を用いるように心がける。
- ・できるだけ学生の反応を引き出すように心がける。
- ・エンカウンターとしてのフィードバックやシェアリングの話し合いと私語とのすみ分け。
- ・マイクを片手に教室内を移動する頻度を増やし、学生とのコミュニケーションの機会をより多くもち、話し易い雰囲気を作っていきたい。
- ・時間配分を考えてはいるが、時々、学生の反応をみて変えている。結果としてどこかの章(パート)が短縮せざるを得なくなる。
- ・板書は、身長が低いこともあり、後部の学生に見えるように書くのが難しい。
- ・学生への質問もテストの設問のように問いかけないと答えられない人が出てきたので、工夫を要すると思っている。
- ・さらに演習の量を増やしてみたいと思います。
- ・ビデオ(DVD)の対応ができないので困難である。
- ・学生の興味と希望をもっと生かす授業の構成を工夫した方がよい。
- ・従来の授業内容を削り、学生のレベルに合うものにしていく必要があります。
- ・一社会人として恥ずかしくない知識と実力をつけるために、検定試験に取り組みせることも考えてみたらよかった。
- ・レベルは高いと言われていました。これは、こちらの思う通りです。レベルを下げる気はありませんが、それをどんな相手に伝えているか、受講者の現実を正確に把握する機会をつくるのが教員には必要であると思いました。
- ・本年度は、講義中に参考動画(主に「You Tube」のもの)を供覧することを増やしてみたところ、わかりやすいという意見が予想以上に多かった。書籍やネットの情報が豊富な時代になったことを踏まえて、適切に情報を選択提示していくことが重要になってきたと考えている。
- ・毎回の「授業アンケート」で、感想と質問を受けつけており、学生とのコミュニケーションは取れている。翌週の授業でその結果を配布しており、復習を兼ねて「質問」に答えている。

また、毎回「ビデオ、DVD」を上映しており、視聴覚教材を利用している。

- ・さらに内容を厳選し、分量を少なくして噛み砕いて説明し、できるだけ大方の受講生たちが理解できるよう努めたい。一方で、「やや難しい」が「おもしろい」くらいの授業もよいのではないかと、とも思われる。
- ・この授業は、1単位（実習科目）の割には、内容がハードになっているため、学生のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。
- ・毎回の評価にあわせ4（授業時に配付する資料を充実させる）、6（学生との質疑応答等、教室内のコミュニケーションをよくする）、7（一方的な講義ではなく、学生の参画や体験学習にも力を入れた）等を改善してきたので、現在はこのままでいくつもりである。
- ・学生の理解度を高め、日常役立つように改善を図っていきたいと考えています。
- ・授業を組み持っている教員との協力を深めたい。非常勤講師はあまりミーティングに参加したがるのかもしれないが、喜んで参加し協力する教員も多いと思う。

設問4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどのようなことがありますか。

(有効回答数 19/66)

- ・項目1（学生の授業態度）について、大多数は熱心に受講しているが4～5名の特定グループが問題。
- ・項目1（学生の授業態度）について、講師や学生個々の問題もあるだろうが、短大全体として学生の質を向上させる対策が必要である。2年間に何度か定期的に、対応策を実施すべきであろう。
- ・遅刻に対して安易に考えている一部の学生がいる。残念である。
- ・授業で配布したプリントを失くしたり、忘れてしまわないでほしい。
- ・やや集中力に欠けるきらいがある。自分に課せられた問題以外は解こうとせずにぼんやりしている学生が見受けられる。集中力を持って授業に望んでほしい。
- ・質問もせず、自分勝手な制作をし、集中的に個人指導して正しても理解できない学生がいる。
- ・少なくとも、テスト前は勉強してほしい。
- ・配付資料をよく読んで、分からないことは質問してほしい。
- ・マイクを向ければきちんと返答できるが、自ら挙手をして質問する学生はほとんどいない。是非積極的に質問・意見を出してほしい。
- ・授業内容をよく聴いて、指示を理解できるように努力してほしい。聞き取っていないことが多いため、実習や提出物・レポートにおいて、同じ間違いが何度も繰り返され、同じ事を質問してくる。
- ・比較的良く「授業」内容を理解しているが、さらに発展させる意欲を持ってほしい。授業の妨げになるような“私語”は注意しているが、ある程度は私語を“容認”している。叱るよりは、“短大生”としての自覚を促すようにしている。
- ・一部の受講生だが、単に出席しただけで安心しないでほしい。取り組んでみようとする姿勢を養ってほしい。また、引き出せるように工夫したい。
- ・講義内容の提示や補足、学生との質疑応答、展覧会・映画の情報紹介など、「manaba」を十分に活用し、授業運営に役立ったが、何度呼びかけても、結局一度もサイトを閲覧しなかった学生が少なからずいた。今後は、もっと利用してほしい。
- ・「manaba」でも質問を受け付けるようにしているが、利用度が低い。

- ・勉強したこと、教科書に書いてあることについて、日常生活の中にも、同じ事が存在していることに気づいてほしい。高校での勉強をきちんと復習してほしい。
- ・興味を持ったことに対して、さらに学習を広げてほしい。
- ・調理科学実習の講義と並行して教えることができれば解りやすいのであろうが、自宅でも料理することで、教科書に記されている食物の調理上の特性を確認するなど、自発的な学習を要望します。
- ・高校まで受動的に授業を受けてきた学生に対して、能動的に授業に参加してもらおうということについては、学生と教員が共に考えて行かねばならないと感じている。この点は、これから社会に出て行く準備でもあることから、授業の枠を越えて、[大学全体で教育する]ことが必要だと思う。
- ・大学での学び方には多様性があるのだという事を知り、大いに楽しんで自発性、能動性を高めたいと願っている。

設問5. 授業改善に関する事で、学校への要望があれば具体的にお書きください。

a. ハード面（情報機器、用具、備品など）について（有効回答数 26/66）

- ・映像を用いる内容が多いので、多種のソフトが聴取できる環境が望ましい。
- ・現在、VTRの頭出しが非常勤講師室ではできず、ちょっと不便に思うことがあります。
- ・グループワークをする設備がない。
- ・DVDの教育システム（座席スクリーンモニター）の専用画面がほしい。ノートPCでもよい。
- ・講義室のプロジェクターの更新をお願いしたい。（暗くて見づらいので、液晶プロジェクターが望ましいと思います。）
また、ホワイトボード用のマーカーがすぐ消耗し、学生から見づらいという意見が多く出ています。現行品では毎回新品を使ってちょうどいいように思う程ですので、何かいい製品はないのでしょうか？
- ・使用教室は充分すぎる「設備と機材」が保証されている。副手の方が、良くサポートしていただいている。
- ・冷房の調子がよくない教室があり、前期の最後の方はつらかったです。
- ・介護用ベッドを借りていただいたので、スムーズに授業ができました。
- ・情報機器の設備などが備え付けの講義室にして頂いた上に、講師室の方がお手伝い下さったので、1限目からでしたが、快適に授業をすることができました。
- ・基本的な設備はありますので、充分です。
- ・中教室にもワイヤレスマイクがあるとありがたい。
- ・よく整っていると思う。
- ・I館201教室を使わせて頂いたが、最後列の学生からの発言・質問などが聞取りにくいのでできれば大教室にはワイヤレスマイクを装備して頂ければと感じた。また、不慣れなためかもしれないが両面コピーをとる際の操作が複雑。
- ・グループディスカッションのできる部屋がほしい。
- ・用具、備品の経年劣化での事故を防止するため保守点検をしていただきたい。
- ・給湯は、湯質に問題があり、排水管の清掃にも問題がある。これは老朽化している為と思います。衛生上の問題からも改善して頂きたい。また、製氷器（機）が調理給食3室に1台も

無いので設置をお願いしたい。

- ・板書を多くすることになると、一般的な教室の黒板のスペースでは足りなくなる可能性があるかも知れません。
- ・実習室を使用させてもらっているが、1年前のソフト等のアンケート以外の事には対応しないという態度ではなく、臨機応変に対応してもらいたい。
- ・DVDの機器の対応。
- ・支障なく行えました。助手さんも準備をしてくださり助かっています。
- ・画面をタッチして操作する機器の中で、反応がとても悪いものがあった。
- ・暗幕の操作が分かりづらくスムーズにいかない時がありました。標示があると便利かと思われます。
- ・ビデオを授業中学生に使用したが、後の方の学生は集中できない様であり、TVが1台では足りない様に思う。
- ・あるもので創造的に使っていますので特に困ったことはありません。オリジナルな教材も自費で作成持参しています。
- ・コミュニケーション活動に基づく学習を進めるためには、学生が動き回れる空間が必要。小さな教室に多くの人数がいては無理である。
- ・与えられた環境で工夫するだけです。

b. ソフト面等について（有効回答数 12/66）

- ・実践の学生が社会に出て、他大学の学生とは違う面を出せる教科として、特徴が出せたら良い。特に女子大に学んだという誇りを持てるように、一般教養の充実を図って行くことも必要と考える。
- ・実習を取り入れる場合には、全員に“コンピュータとDTPソフト”があったほうが良いが、今のところ「紙とエンピツ」で間に合うようなワークショップ（作文、企画、POP広告づくり）で済ませている。
- ・できましたら、氏名と顔写真を実験室にご用意いただけますと助かります。
- ・本の購入もありがたかったです。副手さんに大変お世話になりました。
- ・講義でも使用できるようなDVDなどの用意があると助かります。
- ・ゴールデンウィーク中など、短大は通常授業日になっているところ、単位互換をしている四大では祝日扱いになっているケースが見られる。単位互換制度を採用されているなら、出席率で不公平が出ないよう、女子大・短大間で開講日・休祝日を統一すべきかと考える。
- ・期末試験は、A組、B組合同で実施していただきたい。問題が違くと出来具合が異なり、成績つけるのに余計な気を使うことになる。
高校の補習が必要ではないか。
- ・基本的なマナーの習得、指導。
- ・雑誌などのソフト教材について、私物を使用しているが、教室（実習室ロッカー）に常備して、利用できれば幸いです。
- ・副手さんの存在はとても有難く心強いです。
学生組織編成にともなう縮小・新入学生枠閉鎖など時代に応じて環境が激変していく中で、在学生のモチベーションが下がらないような配慮をお願いいたします。

- ・同じ科目を組み持っている教員との協力強化。相互に授業参観を行ってもよい。
- ・与えられた環境で工夫をするだけです。

設問6. 学生アンケートの内容、実施方法について、ご意見やご要望があれば具体的にお書きください。 (有効回答数 24/66)

- ・内容、実施方法とも特に問題はないと思う。
- ・このままの対面形式でのアンケートを継続してほしい。Web 上への記入方式には若干不信感がある。
- ・自由記述欄があることは助かる。
- ・自由記入欄の感想・要望などは大変参考になるので、できるだけ学生に記入させてほしい。
- ・ほとんどの学生が授業の感想を書いてくれて、大変励みになった。
- ・I-1についての回答は、設問の通りに示してくれると評価がしやすい。「会話をしたことがあるか」の問に対し、項目「全くしなかった」が、「強くそう思う」になっているのは、誤解を招きかねない。
- ・学生に対するアンケートにあまり意味を見いだせない。どの授業も、同じ時間に書かせるので、学生もいい加減で、自分本位の意見だけを出してくる。16, 17は、指示していないのに書いてくる者もいる。一回ごとの授業終了時に書かせている「振り返り」と、学生の感触でこちらは十分である。
- ・項目3「授業計画に沿って授業が進められたか？」については、それが必ずしも良い授業につながるものではないように思う。授業がライブだからこそ、学生の興味・関心や理解に応じて授業内容を変えていくことができる。この項目があることで、学生には、「シラバス通りが良い授業だ！」という印象を持たせてしまうことを懸念する。
- ・学生評価は、無記名式ではなく、記名式が良い。担当教員だけでなく、学生にとっても、「授業評価は授業を改善する」という目的を含んでいるので、無記名では、あまり効果がない。
- ・質問項目10&12を考えた実践女子短大の自己評価委員会は、「大変有能な人々の集まりだ」と感じた。これまで経験したアンケートへの対応として、すべて「悪い」と回答する学生がいたが、付帯する質問事項を付けることで、自分勝手な回答を避けることができると感じた。
- ・他大学のアンケートでもそうだが、実施される授業アンケートの評価(価値?)は、学生の学ぼうとする姿勢の有無によって違ってくると感じている。
- ・最終週の授業アンケート実施という慣例に従ったが、その前週に定期試験を実施した。試験後のアンケート回答では、試験の出来不出来により、影響が出る気がする。それ故に、アンケートを試験実施以前に行えないでしょうか？
- ・毎年願っていることを繰り返します。
 - ① 演習科目の学生評価は不要 (学生が主体の授業形態だから)
 - ② 毎年実施は不要 (新たな授業運営を導入しても、それによる変化が1年で出るわけではないので)
- ・アンケートの内容および教員アンケートなど、毎年、同じ形式で行われているが、統計処理を含めて、何らかの改善を行わないと、「授業評価をやっています」との、外部に対する単なる形式的弁明に過ぎないものになっていると思う。

- ・自由回答部分を充実させては如何でしょうか？ おそらく、もっと授業に対して感じていることがあると思う。講義後の、学生との対話で、他教員の授業に対して「解らない」、「授業でどこを教えているのか判らない」など、学生が戸惑っていることが伝えられた。
 - ・できるなら、アンケートの実施と回収は、教員が一切関わらず(実際に席を外して)、学生または職員が行う方が良いと思う。
 - ・アンケート回収方式について、教員は用紙を配布して記入を依頼する所までとし、回収は事務部(学生の活用も含めて)が行ってはどうか？ また、総合満足度の結果を学生に公表してはどうだろうか？
 - ・当該(選択)科目の具体的な選択理由、受講後の具体的な感想、などを質問事項に加えてほしい。
 - ・全学的な共通項目のほかに、あらかじめ用意された項目から、教員の裁量で質問項目を選択できる仕組みを取り入れたり、もう少しアンケート項目を増やす(最低でも 20)などの取り組みが必要ではないか！
 - ・アンケート内容について、学生自身の意見を聞いてみてはどうか。
 - ・毎回これを実施する必要があるのか？
 - ・自分の授業について、質的・量的側面から振り返るために、このようなアンケートは非常に有用と感じる。また、「自由記入欄」に沢山のありがたいコメントをもらった(不覚にも、涙が出てしまった。今後の励みに、アンケート用紙は大切に保管したい)。
- 内容について:学生のニーズなどをより具体的に知るため、「授業の中で最も役に立った点」、「最も判り難かった点」、「今後取り上げてほしい内容」など、記述式の質問欄を加えてもらえれば、さらに充実したアンケートになると思う。

授業に関するアンケート

実践女子短期大学

このアンケートは、学生の皆さんの意見を受けとめて、短大の授業をより良くしていくために行うものです。アンケートは無記名で行い、調査結果もデータとして統計処理します。誰が書いた回答かわかりませんし、授業の成績とも関係しません。あなたの思っていること、感じていることを正直に答えてください。

所属学科	<input type="radio"/> 日本語コミュニケーション学科 <input type="radio"/> 英語コミュニケーション学科 <input type="radio"/> 実践女子大学	<input type="radio"/> 生活福祉学科 <input type="radio"/> 食物栄養学科 <input type="radio"/> その他	授業名	
在籍学年	<input type="radio"/> 1年生 <input type="radio"/> 単位互換生	<input type="radio"/> 2年生 <input type="radio"/> その他	担当教員名	

評価項目		⑤	④	③	②	①
あなた自身の授業の取り組みについて	1 あなたはこの授業中に授業と関係ない会話をしたことがありますか	全くなかった	ごくまれにした	時々した	かなりした	毎回した
	2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない

教員の授業の進め方について	3 講義概要などの授業計画にそって、授業は進められましたか	←	そう思う		そう思わない	→
	4 授業内容がわかるように構成されていましたか	⑤	④	③	②	①
	5 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか	⑤	④	③	②	①
	6 この授業の教科書・資料や視聴覚教材の使用は適切でしたか	⑤	④	③	②	①
	7 質問に対する教員の対応は適切でしたか	⑤	④	③	②	①
	8 総合的に考えて、教員は熱心に授業を進めましたか	⑤	④	③	②	①

授業の内容について	9 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか	←	そう思う		そう思わない	→
	9で②か①にマークした人は次の質問に答えてください	難し過ぎた	やや難しい		やや易しい	易し過ぎた
	10 授業内容の難易度はあなたにとってどうでしたか	⑤	④		②	①
	11 授業内容の量はあなたにとって適切でしたか	←	そう思う		そう思わない	→
	11で②か①にマークした人は次の質問に答えてください	多過ぎた	やや多い		やや少ない	少な過ぎた
	12 授業内容の量はあなたにとってどうでしたか	⑤	④		②	①
	13 この授業を受講して、あなたの興味や関心はふえましたか	←	そう思う		そう思わない	→
14 この授業を受講して、新しい知識あるいは技術を得ることができましたか	⑤	④	③	②	①	
15 総合的に考えて、この授業を受講してよかったですか	⑤	④	③	②	①	

授業別の特別設問	16 この項目は、教員から特に指示された場合のみ回答してください	←	そう思う		そう思わない	→
	17 この項目は、教員から特に指示された場合のみ回答してください	⑤	④	③	②	①

自由記入欄(授業への感想や要望などを自由に書いてください。裏面使用可)

「学生による授業評価」に関する教員アンケート

自己評価委員会

2010年度前期授業アンケートについて、以下のアンケート項目にお答えください。

1. 学生の評価を全体としてどう受けとめましたか。（1つ選んでください）

【回答欄】

1. 十分納得できる
2. だいたい納得できる
3. あまり納得できない

- ・ 納得できる点、あるいは納得できない点があれば具体的にお書きください。

2. 授業のレベルと量についての学生の評価はいかがでしたか。この評価について、先生の側から見たご意見があればお書きください。

- a. レベルについて

- b. 量について

3. この評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点があれば下記からお選びください。（複数回答可）

【回答欄】

--	--	--	--	--

1. 教科書の選び方、授業時における使い方を工夫する。
2. シラバスの書き方を工夫し、シラバスに添った授業を行う。
3. 教室での話し方、板書の仕方などを工夫する。
4. 授業時に配付する資料を充実させる。
5. ビデオや映像資料などの視聴覚教材やマルチメディアの活用を図る。
6. 学生との質疑応答など、教室内のコミュニケーションをよくする。
7. 一方的な講義でなく学生の参画や体験学習にも力を入れる。
8. その他。

「その他」をお選びの場合には、改善を図りたいと考えている点をお書きください。

4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどんなことがありますか。(複数回答可)

【回答欄】

--	--	--	--	--

1. 私語を慎むなど受講態度をよくしてほしい。
2. もっと積極的に質問をしたり、授業後でも分からないことがあれば聞いてほしい。
3. 教科書や教室で指示した参考書を読むなど、授業時以外でも勉強してほしい。
4. 欠席はもちろん、遅刻、早退をしないように努力してほしい。
5. その他。

「その他」をお選びの場合には、その要望をお書きください。

--

5. 授業改善に関する事で、学校への要望があれば具体的にお書きください。

a. ハード面（情報機器、用具、備品など）について

--

b. ソフト面等について

--

6. 学生アンケートの内容、実施方法について、ご意見やご要望があれば具体的にお書きください。

--

ご協力ありがとうございました。

集計の結果は、自己評価委員会で報告書にまとめた上、Web 上でも公表する予定です。
なお、自由記述に関しては、必要に応じて字句や表現を修正させていただく場合があります。

提出締切は、10月16日（土）です。

《教員アンケートによるご意見》

2010年度 前期分

No.1

希 望 項 目	回 答
<p>① 実施以来、アンケート内容および教員へのアンケート等、同じ形式で行われていますが、統計処理を含めて、何らかの実施 改善を行わないと、「授業評価を実施しています。」という外部に対する単なる形式的弁明に過ぎないものになっていると思います。</p>	<p>数年間同じ内容で実施することにより、経年変化を見ているので、同じ形式、同じ質問項目で実施しています。ご協力くださいますようお願いいたします。(自己評価委員会)</p>
<p>② VTRの頭出しが非常勤講師室ではできず、ちょっと不便に思うことがあります。</p>	<p>非常勤講師室には、そのような設備が整っていません。ご自宅か教室で作業をお願いします。(教務担当)</p>
<p>③ 出きれば、アンケートの実施と回収等は、教員は一切関わらず、その場から席を離れて、学生または職員が行った方がよいのではないか。</p>	<p>アンケートの実施方法については、常に委員会の検討課題となっています。今後も委員会で継続審議していきます。(自己評価委員会)</p>
<p>④ 最後列の学生からの質問・発言等が聞き取りにくいので、大教室にはワイヤレスマイクを装備してほしい。</p>	<p>ワイヤレスマイクが設置されている教室は、Ⅲ103(108名収容)、Ⅲ104(211名収容)、Ⅲ105(108名収容)、H301(208名収容)、H302(207名収容)、H401(309名収容)、H402(195名収容)です。これ以外の教室でワイヤレスマイクをご使用になる場合は、事務室からポータブルマイクをお持ちいただくこととなります。空いている場合は、上記の設置されている教室への変更が可能です。お申し出ください。(教務担当)</p>
<p>⑤ 給湯設備は、湯質に問題あり。排水管は清掃に問題があるので、衛生上改善していただきたい。また、製氷機の設置をお願いしたい。</p>	<p>平成26年度の二拠点化に伴い、短期大学では修理にかかる費用はある程度認められますが、新たに購入・改善する費用は学園から認められていないのが現状です。製氷機については学科にご相談ください。(教務担当)</p>

《教員アンケートによるご意見》

2010年度 前期分

No.2

希 望 項 目	回 答
⑥ 机の移動をしないで、グループディスカッションが出来る教室があるとありがたい。	机を移動しないで円陣になって授業ができる教室は、Ⅲ館A棟にある313教室だけです。定員30名ですが、空いていれば使用できます。(教務担当)
⑦ 講義でも使用できるようなDVDなどの用意があると助かります。	価格や予算等の問題がありますが、希望図書として提供できる場合がありますので図書館にご相談ください。(教務担当)
⑧ ゴールデンウィーク中など、短大は通常授業日になっているところ単位互換をしている四大では祝日扱いになっているケースが見られる。単位互換制度を採用されているなら、出席率で不公平が出ないよう、女子大・短大間で開講日・休祝日を統一すべきか考える。	大学、短大の科目に限らず、ひとつの科目に対して半期15週の授業が文部科学省からの通達で義務付けられています。大学または短大で1人の学生が受講する科目は、開講日は異なっても半期15週授業を行っていますので、不公平にはなることはありません。(教務担当)
⑨ 演習科目の学生評価は不要ではないか。	全科目を対象に実施することが自己評価委員会で決まっていますので、ご協力くださいますようお願いいたします。(自己評価委員会)
⑩ 総合満足度について、結果を学生に公表したらどうでしょうか。	ホームページ上で公表しています。(自己評価委員会)
⑪ 自由記入欄の感想・要望などは、大変参考になるので出きるだけ学生に記入させてほしい。	先生ご自身より、学生に記入するようご指示をお願いします。(自己評価委員会)

《教員アンケートによるご意見》

2010年度 前期分 No.3

希 望 項 目	回 答
⑫ 画面をタッチして捜査する機器の中で、反応が悪いものがあった。	反応が悪いときは、間をおいて再度タッチしてください。(教務担当)
⑬ コミュニケーション活動に基づく学修を進めるためには、学生が動き回れる空間が必要。小さな教室に多くの人数がいては無理である。	当該時間に大きな教室が空いている場合は、変更が可能です。お申し出ください。(教務担当)
⑭ 暗幕の操作が分かりにくく、スムーズにいかない時がありました。標示があると便利かと思えます。	スムーズにいかない場合は、一度止めてやり直してください。教室に「OPEN」「CLOSE」の表示はいたしました。(教務担当)
⑮ Web上の記入形式には、個人的に不信感がありますので、このまま対面形式でのアンケートを継続していただきたいです。	今年度は、後期についても対面形式でアンケートを実施いたします。(教務担当)
⑯ 講義室のプロジェクターの更新をお願いしたい。(暗くて見づらいので、液晶プロジェクターが望ましいと思います。また、ホワイトボード用のマーカーがすぐ消耗し、学生から見づらいという意見が多く出ています。現行品では毎回新品を使ってちょうどいいように思う程ですので、何かいい製品はないのでしょうか？	プロジェクターは、すべて液晶プロジェクターです。4000ANSIルーメン以上の明るさのものを教室に設置しています。 ホワイトボード用のマーカーは、教務担当と用務でたびたび交換していますが、揮発性のためなかなか難しいのが現状です。中には、文字が消えにくい種類もありますので、引続き検討課題といたします。(教務担当)
⑰ 実習を取り入れる場合には、全員に“コンピュータとDTPソフト”があったほうが良いが今のところ紙とエンピツ”で間に合うようなワークショップ(作文、企画、POP、広告づくり)で済ませている。	学科にご相談ください。(自己評価委員会)
⑱ できましたら、氏名と顔写真を実験室にご用意いただけますと助かります。	個人情報の流出には十分注意しています。学科にご相談ください。(教務担当)

©2010 年度実践女子短期大学自己評価委員会

- 委員長 : 西脇智子 (生活福祉学科)
副委員長 : 松尾昇治 (教職・図書館学課程)
委員 : 高瀬真理子 (日本語コミュニケーション学科)
萩野 敏 (英語コミュニケーション学科)
久保勝知 (食物栄養学科)
庶務 : 海野政司、有賀昌子